

平成26年度第1回
八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録

開催日時	平成26年6月18日(水) 午後1時30分～午後3時45分
開催場所	大田原市市民交流センター視聴覚室
出席者	<p>【委員 18名】 小林委員、北島委員、戸澤委員、玉木委員、岡野委員、川嶋委員、室井委員、荻原委員、村山委員、川崎委員、星(史)委員、矢内委員、野口委員、鈴木(義)委員、鈴木(美)委員、吉田委員、川井委員、石井委員</p> <p>【欠席委員 5名】 江部委員、渡邊委員、大相委員、鈴木(英)委員、星(昌)委員</p> <p>【オブザーバー 7名】 那須塩原市、那須町、那珂川町、棚倉町、矢祭町、埴町、大子町</p> <p>【事務局 7名】</p>

1 大田原市長挨拶(要旨)

○八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会を初めて開催することになったが、遠方よりまた、ご多忙の折出席いただき御礼申し上げます。

○地方圏においては、少子化による人口減少、高齢化あるいは医療・福祉、産業振興、公共交通など様々な課題を抱えている。

そこで本市においても、定住自立圏の形成による「選択と集中」、「集約とネットワーク」の視点に立った新しい広域連携のあり方に着目し、委員からの貴重な意見を頂戴しながら持続的、魅力的で幸福感あふれる圏域の形成に向けたビジョンづくりを行いたい。

○毎年度、共生ビジョンの内容について所要の見直しを行うので、長期的な視点に立ったビジョンづくりを行いたい。

○本市としても引き続き、「中心市」としての役割を担い、八溝山周辺地域定住自立圏域が自立した総合的な地域を形成できるよう、着実に歩みを進めていくので、ご理解とご協力をお願いしたい。

2 会長、副会長選出

事務局案のとおり承認された。

会 長 小林委員

副会長 玉木委員

副会長 川嶋委員

3 議事

(1)定住自立圏構想の概要と八溝山周辺地域定住自立圏の取組について

資料 1-1、1-2 により事務局説明

(2)八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン（素案）について

資料 2 により事務局説明

(3)今度のスケジュールについて

資料 3 により事務局説明

説明要旨

○共生ビジョン懇談会の目的、懇談会とビジョンの位置付けについて、定住自立圏構想推進要綱の第6に「共生ビジョンは、ビジョン懇談会における検討を経て」と規定されているので、委員からの意見、提言をいただきながら、中心市が策定作業を進めていきたい。

○委員からの意見・提言の方法及び共生ビジョンへの反映について、事務局説明後に意見交換の場を設けるので、意見・提言を出していただくとともに、後日、意見等を事務局までいただければ第2回ビジョン懇談会に資料として提供する。

なお、専門の政策分野に限らず、将来像や全体的な内容、個々の事業内容について意見等をいただきたい。

いただいた意見等については、内部において検討し、共生ビジョンに反映していく形を作っていく。

○事業と予算の関係について、共生ビジョンに掲載された事業に対し、毎年度国から特別交付税という形で財政措置が受けられる。

現在、平成26年度からその財政措置が受けられるよう事務を進めているため、既に予算化された事業が大半を占めている。

そのため、いただいた意見等については、翌年度以降の共生ビジョンに反映させるかどうか検討を行っていくのでご了承をいただきたい。

4 意見交換

委員	資料（平成26年度事業一覧）は誰が作成したのか。
事務局	大田原市政策推進課が作成した。 41の事業となったが、平成23年度から研究会を開催し、当時は100以上の事業提案があったが、これならできる、定住自立圏の取組事業に位置付けられるということで、各市町と検討を行い41事業まで絞った。
委員	定住自立圏に取り組む自治体は全国でいくつあるのか。
事務局	中心市宣言を行ったのが93団体。連携市町は280団体。
委員	日本全体で人口減少が進んでいるが、その中で八溝地域に人が留まる

とともに若い人たちに入ってきてほしいということだと思うが、この地域としての魅力ある事業はあるのか。

事務局 八溝山を囲んでいるということで、大田原市と福島県・茨城県との住民の行き来が盛んではないという現状から、どういったことをすれば魅力ある事業となるのかが課題となっている。

それらを踏まえた上で、まずは交流からはじめよう。そこで、子供達が集まる場を提供することができないかを考え、野球・サッカー教室を開催すれば、子供だけではなく、保護者、大人の交流も図られるのではないかと考えている。

また、結婚促進活動については、それぞれの自治体で行っているが、圏域全体で取り組めば、若い人たちが集まる場ができる。

さらには、住民を対象とした講演会やシンポジウムなども交流が始まるきっかけとなると思われる。

委員長 この地域に若い人達が集まってくるためには、どうすればいいのか、これから皆さんと一緒に考えなければならぬと思ひ発言した。

会長 共生ビジョン原案は作成されていますが、これらにとらわれずに議論していいという確認は事務局にとっている。

委員 最終的にどういった形で事業化されるかは行政の手順があるわけだが、色んな新しいものへの発言をお願いしたい。

委員 公共交通の分野がゼロ予算となっている。

営業ナンバーの規制が来年4月から厳しくなり、試算の段階ではあるが、倍くらいの料金体系になるのではないかと思っている。

魅力ある地域をつくってもそれを結ぶ交通手段がない。その辺で各市町がゼロ予算ということは、それに対する推進はないのかなと感じてしまう。

市町村を越える公共交通、主にバスになるが、その辺をどのように進めていくのか。

事務局 各市町が公共交通会議をもっていて、この圏域で情報を共有することから始めないと市町村境を越える運行や事業者への理解などが進まないということを担当課から聞いている。

会長 買い物に視点を合わせて、いわゆる買い物難民に対しては、移動販売車を利用しよう。

通院にすれば、病院がバスを用意しましょうというように個別的には動きがあるが、地域公共交通に関しては、全体の基盤として議論していただければと思う。

委員 教育に関して、複式学級や小中一貫校があるが、全体的に統合・廃校という流れになっている。

人口減少・限界集落対策のための定住自立圏構想だと思うが、この小学校の統合・廃校は構想と矛盾しているのではないか。

若い夫婦は地元で小学校がなければ、その地域に住まないのではないか。大田原市でも答申が出たが、どこの市町でも統合・廃校が進んでいる。

その土地に対する記憶というものは小学生に対してはとても大切であると感じている。

小学校を統合することになると小学生からそういう土地の記憶を奪うことになるのではないか。

教育講演会、ICT推進もいいが、教育に関して本質的なものが抜けているのではないか。

会 長 事務局として根本的なものが抜けていると感じますか。

事務局 定住自立圏構想でそこまで踏み込んだ議論はこれまでなかった。

3県を跨いでいる中で教育方針を語り合う場がないので、そういった場を設定し、話し合う機会をもちましょうということはある。

委 員 公共交通について、主にバスになると思われるが、タクシーについても公共交通機関としての役割を担うことができると常々考えている。

路線バス、地域の公共バスは行政からの補助金で運行しているが、タクシーはこれまで自活でやってきた。

但し、これからは高齢化に伴い、輸送を担うバス、タクシーの運転手も高齢化が進み、労働力の減少が進む。

タクシーの利用に関し、住民の通院に関する運行補助さらには観光客への運行補助についてご検討いただければと思う。

委 員 職員の人材育成とあるのだから、地域公共交通に関して、事務局職員、オブザーバー、担当者を対象にし、専門家を数人入れた小さな会議を開催し、その結果を委員に示してほしい。

会 長 事業ごとの進捗状況などの報告はいただけるのか。

例えば、何かプロジェクトを立ち上げましたとか。

事務局 はい。

委 員 医療に関して、現在、この地域は栃木県県北医療圏と申しまして、県のとちまるネットというものを活用している。

大田原市、那須塩原市、那須町、那珂川町はとちまるネットで情報が共有できる。

今後、福島県と茨城県とはどのように連携していけるのか考える必要があるのではと感じている。

会 長 イメージで他県の自治体と連携するのはわかるが、具体化するとなると、法律などクリアしなければならない点もあると思われるが、これま

事務局 　　でそういった検討はされたのか。

事務局 　　八溝山定住自立圏構想はできるところから始めましょうということ
でスタートした。医療に関しては、那須広域の夜間急患診療所運営事業
など既存の事業を共生ビジョンに掲載するだけにとどまっている。

委員 　　医療に関しては、これからの課題という認識でいる。
　　大子町は医療に参加していないということになっている。

事務局 　　医療に関しては、へき地ということもあり、県のドクターヘリを活用
しているようだ。
　　またドクターヘリに関しては、福島県とも協定を締結したということ
を聞いている。
　　定住自立圏で栃木県と連携するなら、地上搬送ということになると思
われるが、協定を結んでいないということは医療に関して、県を越えて
いるから対象外ということなのか。

事務局 　　対象外ということではない。
　　この5年間でできることはと考えたときに、医療に関し、県境を越え
ることは難しいということで大子町が協定を締結しないという判断に
至ったのではないか。

委員 　　ただし、再び議会の議決を経て協定を見直すことは可能。
事務局 　　ドクターヘリを使った医療の充実ということも可能ということか。
委員 　　県や医療機関との調整、予算の問題をクリアすれば可能である。
委員 　　道の駅の連携ということで、店長級の会議を開催し、お互いの商品
を紹介したり、どのようにすれば発展するのかを話し合えば、道の駅の活
性化につながると思われるので今後やっていただけるよう提案します。

委員 　　結婚事業について、所属する青年部で出会い事業を3年間やっている
が、その中で一番苦勞しているのが、人集めである。
　　人が集まるよう連携してやっていただければと思う。
　　また、提案になるが、行政主導の出会い系サイトをやってみてはどう
か。

会長 　　友達になったら、この地域の施設の優待券、無料券を発行する。
　　結婚したら、更に何らかの特典があれば面白いのではないか。
　　行政が各市町の青年部の方が集まる場を設け、企画は青年部で行って
もらい、行政は一步引いて補助をするくらいにすれば、面白いものがで
けるのではと今話を聞いて思ったが、可能性はあるか。

委員 　　できると思う。
　　但し、イベントが継続できるのかという疑問と、イベントの結果、交
際したとか結婚したとか追跡調査ができないのが課題。
　　出会い系サイトという言葉はイメージが良くないが、行政が主導する

ことにより、安心され利用されるのではと思います提案した。

会 長 この地域に生まれ、育ち、出会い、結婚し、その子供が地域の小学校で学ぶということが理想なのかなと思うが、その辺は議論されたのか。

事務局 大田原市でも数年前まで単発の出会いイベントを行っていたが、効果がえられないということで中止になった。

県レベルではあるが、茨城県や兵庫県は出会いサポート事業というものを行っていて、結婚を希望する方が、システムに個人情報に登録することにより、異性のプロフィールを閲覧できるというシステムを構築している。

これを八溝地域でと考えたときに、まずは、利用者数予測や導入費用を検証してからということで話を行っている。

委 員 参考として、商工会議所青年部で結婚促進活動を行って3年になるが、去年は市の旧須賀川小学校を第一会場にし、「おおたわら d e 逢い学校」と題し、第二会場を大子町のブルワリーに移し開催した。

このように既に広域で取り組んでいる事例があるので、是非他の自治体からも大田原市においていただきたい。

それと、先だって矢祭町の戸津辺の桜を初めて見に行き、樹齢600年と聞いてすごいと感じた。

委 員 そういう資源の活用方法について取り組んでいただきたい。

全部で41の取組事業がある中で予算化しているのは10項目にとどまっている。

それぞれの自治体の財政事情があると思うが、那珂川町を見ると、No.18 災害時の相互連携、No.7 幸齢者スクールが予算ゼロとなっている。それとNo.15 鳥獣害防止について、各自治体ともイノシシの農作物被害に遭っていると思うが、予算を取っているところと取っていないところがある。

会 長 そういった理由を次回までにつまびらかにしてほしい。

一つひとつは難しいとは思いますが、委員指摘の件だけでも説明できないか。

事務局 幸齢者スクールについては、大田原市が事業費全額を負担し、各市町の住民の方に参加していただくことを考えているため、各市町の事業費がゼロとなっている。

災害時の相互連携については、防災計画に基づき避難所に指定されている施設の改修を共生ビジョンに載せ事業費は各市町の当初予算ベースの額を計上している。

那珂川町は補正予算で対応したいと聞いているため、9月補正には何らかの施設改修費用が計上されるのではないかと。

委員
委員

また、健康づくりの推進については、スマートフォン用のウォーキング促進アプリのシステムを改修し、圏域の住民の方に使っていただくことを考えている。

それを聞いて安心した。

41の事業を個々に見ると素晴らしいとは思いますが、粒々にみえてくることも否めない。

P2に相当する八溝山地域の目指すべき方向、ビジョンを明らかにし、独自性を出すことができれば。

この地域だと観光と農業ということになると思う。ビジョンを明確にすると個々の事業を全てやるのは大変なので絞っていくこともありえると思う。

また、この地域のブランド化するといったことはどうか。

例えば、道の駅の連携でも共通のシールなどを作製するとか、ホームページを作成してPRするなど考えていってはどうか。

委員

FIT構想やグリーン構想でブランド化を手がけ失敗しているので、同じ轍を踏まないようやっていただきたい。

それと、有害鳥獣防止に関し、それぞれ県の条例で動いているので、それぞれの県条例を共有化することにより、例えば、福島県のいいところを栃木県に逆輸入するといったことができれば、全国的に面白い展開になるのではないか。

委員

八溝山系は素晴らしい自然が残されているが、手入れが行き届いていないのでそういった対策をお願いしたい。

また、共同で各市町のPRや商品の販売促進を行っていただければと思う。

- 5 その他 第2回ビジョン懇談会を8月7日（木）午後1時30分から開催することに決定した。